

たかすの

日之影町立高巣野小学校
学校だより 第2号
令和元年 5月13日



スクールガードの方との対面式

4月16日(火)の朝の時間に、スクールガードの方との対面式を行いました。

本年度もたくさんのスクールガードの方が子どもたちの登校を見守ってくださいます。ボランティアでしてくださる皆さんに感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。児童の皆さんが、「おはようございます」「ありがとうございました」「行ってきます」を言うことが、感謝の気持ちを伝えることになり、スクールガードの方も喜ばれます。

対面式では、都合で5名の方のみの出席でしたが、合計で10名の皆様にお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。



令和時代が始まりました！すてきな時代に！

10連休の間に元号が「平成」から「令和」に変わりました。今回初めて、中国の古典からではなく、日本の書物から引用された元号になるそうです。日本人が日本人らしく素敵な時代を築いていきましょう！という意図があるのかもしれないですね。「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、平和な日々感謝しながら希望に満ちあふれた新しい時代を築いていこう」という意味があるのだそうです。

5月の全校朝会では、子どもたちにも今年重点目標の「いっしょうけんめい」と「おもいやりに合わせて話をしました。「令和の時代にふさわしく、おもいやりの気持ちをもって友だちと仲良くし、希望(自分の夢)に向かっていっしょうけんめいがんばってください。」

交通教室 ～ 自転車の正しい乗り方学びました！

4月25日の3校時に高千穂警察署高松駐在所長の相星様と高千穂交通安全協会の交通指導員さんを招いて交通教室を行いました。本年度は自転車の正しい乗り方について学習しました。現在の交通事故の状況や事例について話を聞いた後、自転車の点検の仕方や正しい乗り方、横断の仕方など、実際に自転車を使って教えていただきました。今回学んだことをこれからの生活に生かして交通安全に心がけましょう。



【裏面へ続く→】

宮水ソフト県大会準優勝！ 全国大会出場決まる！

本校のグラウンドで練習し、本校の児童も10名加入している「宮水ソフトボールスポーツ少年団」が連休中に行われた県大会で準優勝したそうです。また、夏に長崎県で行われる全国大会出場も決めたそうです。本当におめでとうございます。全国大会での健闘を祈ります。



友だちの作文が新聞に載りました！

自しんをつけた

旧三年 甲斐 愛梨

二月三日に高巢野小学校で、学習発表会がありました。わたしたちは、「高巢野にん者たい」という発表をしました。ふろしきを頭にまくと本物のにん者みたいになりました。マットの前回り、なわとび、百人一首、音読、合そう、歌、そう合の発表をしました。私が一番きんちようしたのは、そう合の発表です。どうしてかというところ、しよに発表するはずだった友だちが休んだので、一人で発表しないといけなくなりました。一人で、大ぜいのお客さんがいる前に立つたら、とてもドキドキしました。せりふも二人分なので長くなりました。何回も練習をしました。私は、声を大きくすると、ゆつくり言うのを気をつけました。そして、うまく言えました。お父さんお母さんが、「うまくできてたよ。」と言ってくれました。うれしくなりました。がんばってよかったなあと思いました。

三年生の学習発表会は、自分にとって、とても自しんになった発表会でした。

【2月27日 夕刊デイリー掲載】

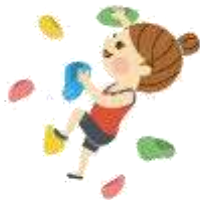
ぼくの妹

旧三年 興栢 真人

ぼくには、一さいの妹がいます。いつも、ぼくのへやにある二かいだてベットのほしごを全部上りきつてしまえます。ぼくは、「一さいなのにごい。」と思いましたが、妹は、ほしごを下りたり、上つたりを何回もくりかえします。そして、ぼくがねる時も、まだほしごを上っているから、ぼくは、妹が落ちそうでねむれません。

ぼくの家には、二かいにつながっている、とっても長いほしごがあります。ぼくは今から、妹は五さいぐらいになったら、あの二かいにつながっている、とっても長いほしごを上るんじゃないかなあと思います。ぼくは、高い所はきらいだけど、妹はぼくと同じで、高い所が好きなんだと思います。もしかして妹はロッククライミングのせん手をめざしているのかもしれない。

【3月13日 夕刊デイリー掲載】



【今後の主な行事予定】

5月15日(水)	スポーツテスト	5月24日(金)	春の遠足(5年以外)
17日(金)	参観日 学校保健委員会 家庭教育学級開級式 給食試食会	26日(日)	PTA奉仕作業(松の木地区)
20日(月)	心電図検査(1・4年)	29日(水)	歯科検診 梅ちぎり(予定)3年
23日(木)	集団宿泊学習(5年)~24日	30日(木)	プール清掃(4~6年)

【文責：鈴木 泰昌】